

「世の終わりは破滅ではなくキリストの時」

イザヤ書 60章19～20節

マルコによる福音書 13章24～27節

本学講師・日本ナザレン教団小山キリスト教会牧師 石田 学

いつか世界の終わりが来る。わたしは最近とみに、そのように実感させられています。地球温暖化、大気汚染、海洋汚染、自然破壊、放射性物質の問題、そしてそれらが副次的に引き起こす、民族対立、食糧不足、難民の発生、異常気象、生態系の破壊…。こうした世界の現実がキリスト教信仰と無関係だとは、とうてい思えません。キリスト教が罪と呼ぶ、人間の問題が根底にあるからです。世界の終わり、少なくとも人間を含めた現在の生態系の終わりが、SF小説ではなく現実になりつつある今、一つの問いが浮かんできます。果たして世界の終わりは破滅なのかという問いが。もし、世界の終わりが破滅であり虚無の支配であるとしたら、その先に希望はありません。わたしたちは恐れ、嘆き、失意の闇に包まれて終わることでしょう。

イエス様はきょうの福音書で、終わりの時の宇宙的な天変地異について語りました。それは物理的な異変というだけでなく、魂の危機を象徴する言葉でもあります。なぜなら、もし、苦難と危機の先に破滅しかないなら、わたしたちの魂は嘆きとあきらめの果てに、永遠の闇に飲み込まれるでしょうから。

しかし、きょうの福音書で語られているイエス様の言葉を注意深く読むと、苦難と危機がもたらす最後は破滅だとは言っていないことに気付かされます。破滅が全ての終わりなのではなく、イエス様は希望の言葉を告げ知らせしているからです。たとえ苦難と危機は現実であるとしても、その先に光があることを。

そのとき、人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを、人々は見る。

そのとき、人の子は天使たちを遣わし、地の果てから天の果てまで、彼によって

選ばれた人たちを四方から呼び集める。

「人の子」というのは、イエス様がご自分を指して使う言葉です。終わりの時に再び来る。イエス様はご自分の未来を希望として弟子たちに告げ知らせました。重要なことは、世の終わりは破滅の時ではなく、キリストが来る時だということです。最初のキリストの弟子たちから、現代に至るまで、キリスト教徒はずっと、そのように信じてきました。終わりの時に、主キリストは再び来られると。キリスト教徒が何を信じているかを要約した、「使徒信条」という信仰告白があります。その中にこういう文言があります。主キリストは、

三日目に死人の内よりよみがえり、天に昇り、

全能の父なる神の右に座したまえり。

かしこより来たりて、生ける者と死ねる者とを裁きたまわん。

終わりの時にはそうなる。これがキリスト教の教えの核心です。しかし、キリストは、終わりの時にしか来ないわけではありません。終わりの時よりも前に、いま、ここに、わたしたちのもとに来て、共にいてくださる。代々のキリスト教徒はそのように信じてきました。教会が歴史を通して大切にしてきた、挨拶の言葉があります。

主(キリスト)があなたと共におられます。

今も教会で交わされるこの挨拶は、いつかそうなるというのではなく、今、主と共におられることを、互いに呼びかけ合う言葉です。霊において共にいてくださる主キリストは、選ばれた人々、キリストを信じる神の民を、昔も今も地の果てから天の果てまで、四方から呼び集めています。集められた人たちは世界中で、教会という神の民の群れを形作り霊においてキリストと共にいてくださると信じて、この世界で生きています。ある大切な神の目的のために。それは呼び集められた神の民が、神の愛と憐れみという光を世に輝かせることで、闇の広がるこの世界、苦難と危機の時代にある世の人々に、この世界が破滅と絶望で終わるのではなく、キリストが来て、神の愛に満ちた平和が支配する新しい世界を実現してくださるといふ希望があることを信じ、人々に示すためです。

闇の支配が広がるこの世界で、神を信じる者の灯す光は、小さくて弱いかもしれませんが。しかし、暗黒しかないよりは、はるかに良い。そして世の終わりにキリストが再び来られるなら、その時には預言者イザヤが語る、希望の言葉が実現すると、わたしたちは信じます。

主があなたの永遠の光となり

あなたの嘆きの日々は終わる。 イザヤ60:20

祈り

恵み深い主なる神。恐れと不安の闇が増し、世の終わりを予感させられる時代にあつて、わたしたちが主キリストの与えてくださる希望を信じることができますように。わたしたちを、キリストの光をこの世界に輝かせる者としてください。

イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン。

2021年10月22日 聖学院大学 全学シリーズ礼拝「聖書が語る希望」